

第6学年 社会科の実践

1. 単元名 「全国統一への動き」 (全9時間 本時6時間目)

2. 単元目標

- ・戦国の世が統一されたことを理解するとともに、遺跡や文化財、地図や年表などの資料を通して、情報を適切に調べまとめる技術を身につけるようにする。
- ・北条氏をはじめ信長、秀吉、家康の政治の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- ・北条氏の業績や信長、秀吉、家康の全国統一について主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多面的な思考や理解を通して、日本や自分たちが住んでいる小田原の歴史や伝統を大切にして国や地元を愛する心情を養う。

3. 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題・・・子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成
手だて・・・子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり
高学年ブロックテーマ「仲間への理解、自立する自分」

- ・仲間を理解しつつ、自分の思いも大切にする姿
- ・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

〈聴く・話すについての指導〉

自分の考えを話す時、教師に向かって話をしたり、周りが聴く準備ができていないのに話し始めたりと伝え方に課題がある。「言いたい」から「伝える」へ相手意識を持って話をしている児童を取り上げ、全体に広めているところである。また、学習中全員が発表する場面を意図的につくったり、朝の会の中にみんなの前で話す時間を設けたりすることで、発表することへの自信が付いてきた子が多い。話すことへの自信を持ち、発言できるようになってきた子を取り上げて認めていく中で、一人また一人と不安傾向の強い子も含めて発表できるようになってきた。まだまだ、話し合いの段階になると一部の子に限定される部分もあるが、その中でもペアやグループなどの学習方法を効果的に活用しながら、話し合いの場面における話す力も高めていきたい。

「聴く」ことについて、友達の意見を理解しようと、体を向けて聞いたり、うなずいたり、反応したりしながら聴こうとする姿が少しずつ見られ始めている。一方で、手遊びや定規などを触っていて友達の話を聴くことに気持ちが向いてない児童もいる。『反応』ということ 키워ドにあげながら、友だちの話に自分なりに反応することを大切にしてきた。ただ声を出すことが反応ではなく、うなずくことやメモすること・つぶやくこと・分からないと首をかしげることなど、聴き方の多様性を認めつつ、良い反応を取り上げていくように指導してきた。

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

児童同士が関わり合いひびき合えるよう、なるべく多くペアやグループでの話し合いを取り入れている。総合的な学習のテーマ決めや役割決め、振り返りなどをクラスでじっくり話し合いお互いの意見のずれを何度も取り上げてきた。問いを見いだし、それを解決していく中で生まれた意見のずれを取り上げ、話し合っていくといった学習過程を国語・総合・学活を中心に行ってきた。これにより、子ども同士の関わり合う力は少しずつ身に付いてきている。図や板書、問い返しから子どもたちのずれを明確にすることによって、話

し合いを通して自分の思いを強めたり、考えを深めたりするひびき合いの姿を目指したい。

自分に関わることであり、多くの児童が熱心に話し合う場面があるので、なるべく児童にとって身近な学習課題を与えていくことを大切にしている。全体での話し合いになると、よく友達の話の聴いている児童は多いが、その意見交換の中に入ろうとする児童は限られており、少ない人数でひびき合っていることがある。クラスみんなでひびき合うことを目指していくために、自分の考えをしっかりともちこたせることに加えて、話す、聴くのを土台を大切に指導していきたい。また、教師が話し合いをリードしすぎず、児童が中心となって、自分たちで問題や疑問を解決していけるような姿を目指していきたい。

4. 単元と指導について

〈単元について〉

本単元では、大名が領地を広げようと戦い、全国統一を目指す戦国時代を扱う。戦国時代は室町時代に起こった応仁の乱から始まり、その後豊臣秀吉が小田原の北条氏を倒して全国を統一するまでの100年間ととらえ、学習を進めていく。

学習内容として、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康に加えて、小田原の北条氏を最初に扱う。子どもたちの地元である小田原を築いてきた北条氏を学ぶなかで、どんな政策、戦略、思いを大切にしてきたかに触れていく。豊臣秀吉による全国統一の最後の砦であったことや、当時の関東を支配していたこと、農民たちを大切にしてきたことを理解することで、地域を愛する心情を育てることにつながると思う。また、小田原の北条氏をはじめ、戦国時代の歴史を学び、先人たちの考えをこれからの生活に生かしていくという、歴史を学ぶ意味を感じられるようにしていきたい。

〈指導について〉

前時までに、室町幕府が崩れ、戦国大名たちが全国統一を目指して争う時代へと進んでいく流れをつかんでいる。導入では、「戦国時代にどんな人が活躍したのだろうか？」という問いから進めていく。子どもたちもよく知っているような武将が多く活躍しているなかで、小田原の北条も大きく活躍していることに気づくことで、戦国時代と小田原の関係に興味・関心を持つと考える。関東の多くを支配していた図や、戦国時代の100年を、最初から最後まで続いていたことを、他の武将と比較したグラフで示すことで、北条氏の強さや、長く続くすごさに大きく感心すると考える。一方で、「なぜこんなにも強いのか?」「なぜ100年も続くことができたのか?」という考えが出ると考え、それらの疑問を解決するためにまずは北条氏の強さや長年続いた理由を、「戦い方」「政策・しくみ」「人柄」に分けて調べ学習を進めていく。

北条氏のことを調べ、クラスで共有していくなかで、「農民のことを大切にしている」「守りの堅い戦いで、戦に強い」「多くの人から信頼されていた」といった、北条氏に対してよい印象をもつ子どもが多くいると考える。そして、北条氏の最後となる、小田原攻めの様子を伝える。小田原城が豊臣軍に囲まれた図を見せ、この状態が3か月続き、戦いをせずに北条氏は降参してしまうことを伝える。子どもたちの反応は、「なんで戦わなかったのか」「3か月何をしていたのか」「これに勝てば全国統一なのに」といったものであると考える。また、そのなかで一番多い反応としては「なぜ降参してしまったのか?」であると想定し、その上で本時に子どもたちが解決したい問題は「北条氏はなぜ降参してしまったのか?」である。これまで学習してきた北条氏の戦い方や政策・しくみ、人柄を踏まえながら予想を考えてもらいたい。その予想を伝え合うなかで、北条氏の小田原の町の基盤をつくってきたことや、北条氏の小田原の民衆を思う気持ちに子どもたちが気づいてもらえるようにしていきたい。また、小田原攻めを北条氏側からだけでなく、豊臣側からの視点も大切にしながら学習を進め、多角的な視点をもてるようにしていく。そして、北条氏がなぜ降参したのかについて、これまでの学習から、根拠のある予想を伝え合うことで、自分の考えを深めたり、より明確にしたりする姿をひびき合いの姿

とする。

単元の後半では、強さもあり、長く続いた北条氏を滅ぼした豊臣秀吉をはじめ、織田信長、徳川家康について学習していく。全国統一したことや、新たな戦い方や政策を生み出したことを調べていく。また、江戸幕府に北条氏の町づくりや政治が活かされていることや、北条氏の総構が多くの城で参考にされていることを知ることで、より地元である小田原への愛着が生まれてくると考える。

5. 単元構想 6年社会科「全国統一への動き」(6/9)

【単元目標】

- ・戦国の世が統一されたことについて理解するとともに、遺跡や文化財、地図や年表などの資料を通して、情報を適切に調べまとめる技術を身につけるようにする。
- ・北条氏をはじめ信長、秀吉、家康の政治の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- ・北条市氏の業績や、信長、秀吉、家康の全国統一について主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多面的な思考や理解を通して、日本や自分たちが住んでいる小田原の歴史や伝統を大切に国や地元を愛する心情を養う。

前時まで・・・室町幕府が崩れ、戦国大名たちが争っていく時代へと進んでいく流れをつかむ。

戦国時代にどんな人が活躍したのだろうか？①

- ・織田信長は有名だね！ ・豊臣秀吉は知ってる ・徳川家康も知ってる
- ・真田幸村おれ大好き！ ・武田信玄カッコいい ・小田原の北条も戦国時代の人だよな？

関東をすべて支配していた図や、戦国時代100年を最初から最後まで感っていたことが分かるような資料を子どもにも掲示する。

- ・関東全部だ！ ・俺たちの北条すごいじゃん！
- ・ずっと続いているってすごい！ ・すごいっしょいね！
- ・なんでこんなに強かったの？ ・こんなに長く続くために何かしていたの？

【予想】

- ・戦い方が強かったんじゃない？
- ・総構を固めたことがあるよ！
- ・なにか政策をしていたと思う。
- ・特別な訓練をしていたとか

北条氏はなぜ強くて、長く続いたの？②③④

資料を読み取り、北条五代の政治の特色を捉えることができる。【知・技】

政策・政治	戦い方	人柄
<ul style="list-style-type: none"> ・検地を行い、税金を決めた。 ・税の仕組みを変え、地方の領主が勝手に取り上げることができなくなった。 ・大事なことは話し合いで決めた。(小田原評定) ・裁判の仕組みを作り、どんな人でも訴えられるようにした。(目安箱) ・家訓二十一箇条 ・虎のはんこ→地方の領主は勝手に命令出せない 	<ul style="list-style-type: none"> ・「総構」⇒9キロメートルで囲まれている 深さは10m以上 幅は16m⇒障子堀 ・籠城作戦 ・上杉謙信、武田信玄にも勝利 ・戦わずして、同盟を組んで終わることもあった ・城の作りが工夫されている。 (豊臣秀吉や徳川家康も参考にするほどのつくり) 	<ul style="list-style-type: none"> ・民衆を大事にしていた。 ・民衆からとても信頼されていた。 ・親子の関係を大切にした。 ↓ ・家督争いが一切なかった。 ・上の立場になっても満足しなし



- ・みんなから信頼されていてすごい！ ・いろいろな戦いに勝ってきてすごい！
- ・親子関係を大切にしている素敵！ ・こんなに信頼もされて、戦い方も最強なら負けなよ！
- ・最後はどうやって終わってしまうの？
- ・豊臣秀吉に負けると聞いたことが・・・

・豊臣秀吉の小田原攻めの、完全に包囲されてしまっている図を掲示する。(有名な將軍たちも来ている)

・この状態が3か月続き、北条氏は戦わず、降参してしまったことを伝える。

北条氏がなぜ降参してしまったかについて、これまでの学習から予想や仮説をもち、話し合いを通して自分の考えを築めたり、より明確にしたりすることができる。【感・判・表】

- ・こんなに囲まれているとさすがにむりかな・・・
- ・え！戦わなかったの？ ・これに勝てば全国統一なのに！
- ・北条氏はどうして戦わなかったの？ ・北条氏は何をしていたの？
- ・北条氏はなぜ降参したの？ ・豊臣氏は何をしていたんだろう？

北条氏はなぜ降参したのか？⑤⑥(本時)

- ・数であまりにも差があったから戦わなかった。⇒話し合いで決めた。
- ・家族や民衆を大事にしたいから戦わなかった。
- ・ずっと話し合いをして迷っていた。
- ・武器や食料が尽きて最終的に戦えなかった。
- ・最初は今までの戦い方で守りの戦術をしていたけど、最終的に戦えなくなった。
- ・一夜城のすごさに、戦う気がなくなった。

- ・詳しい人に聞いてみよう！
- ・こんなに強い北条氏を倒した豊臣秀吉はどんなことをしてきたんだろう。
- ・徳川家康も小田原攻めに来ていたね！
- ・織田信長はもっと強いんじゃない？
- ・3人を調べてみたい！

資料を読み取り3人の政治の特色を捉えることができる。【知・技】

豊臣秀吉はどんな人物だろうか？⑦

徳川家康はどんな人物だろうか？⑧

織田信長はどんな人物だろうか？⑨

政策

- ・刀狩令 ・太閤検地 ・朝鮮出兵

戦い

- ・全国統一 ・大阪城 ・明智を倒す

政策

- ・江戸幕府を開く ・鎖国 ・参勤交代

戦い

- ・江戸幕府の作り ・関ヶ原の戦い

政策

- ・楽市楽座 ・キリスト教との関係

戦い

- ・鉄砲を取り入れた ・長篠の戦い
- ・本能寺の変(全国統一まであと一步)

5. 本時について

- (1) 本時目標 北条氏が立てこもった3か月間何を話し合っていたのかについて、これまでの学習や、調べたことから予想や仮説をもち、話し合いを通して自分の考えを深めたり、より明確にしたりすることができる。【思・判・表】
- (2) 本時展開

学習活動		主な支援・留意点 ◆評価【観点】
<p>民衆のために降参</p> <ul style="list-style-type: none"> 民衆の死者がでないように 代々民衆を大切にしてきたから 兵糧攻めで苦しむ民衆を見たくない 	<p>小田原城なら守れる</p> <ul style="list-style-type: none"> 食いつめられる 総構（総延長9kmの土塁と空堀） 陣子原（図） 小峰御籠ノ台大堀切（図） 粘り続け相手が引き下がるのを狙う（瀧城戦法） 	<p>○前時までに学習したことを足跡として残り、いつでも振り返れるようにする。</p> <p>○子どもの考えを板書するとき、仲間分けをしていく。</p> <p>○ある程度考えが出てきてから自分の考えの場所にネームプレートをはり、それぞれの立場がはっきりするようにする。</p> <p>○つぶやきを拾い、問い返しをして、わからないまま話し合いが進まないようにする。</p> <p><焦点化のポイント></p> <p>★「氏政・氏直はどんな気持ちで？」と投げかけ、気持ちを想像する。</p> <p>◆北条氏がなぜ降参してしまったかについて、これまでの学習や、調べたことから予想や仮説をもち、話し合いを通して自分の考えを深めたり、より明確にしたりすることができる。【思・判・表】</p>
<p>誰が切腹する？</p> <ul style="list-style-type: none"> 責任とんきな女一 わしはいやだ！ 氏直「わたし一人の…」 	<p>逃げる方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 海ならいける！ 忍者となら！ 	
<p>仲直りする方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 民衆を想って 	<p>作戦を立てた</p> <ul style="list-style-type: none"> 代々戦略家 →氏原のように奇襲で逆転しよう！ 刀に自信（図） 	
<p>北条氏は3か月何を話し合っていた？</p>		

7. 実践を終えて

<単元について>

本校は小田原城の隣にあるのにも関わらず、子どもたちは小田原の歴史についての知識が少なく、同時に小田原への愛着の薄さも感じた。北条五代祭りについて話したときも意味を分かっている子どもは少なかった。当初は北条氏が行った政策・戦術・人柄の3つに分けて調べていく予定だった。しかし、「北条五代がそれぞれどんな人なのか知りたい！」という気持ちが強かったので一人一人にスポットライトを当てて調べていくことにした。

<成果>

自分の考えをしっかり持てる子が限られていたが、今回、子どもたち一人一人がこれまでに学習してきたことをもとに、自分の考えを持つことができた。北条五代一人一人の政策や戦術からそれぞれの人柄を学習したことで、北条氏の気持ちに迫った考えを持つことができた。そして、その考えをもとにペアワークが活発にできていた。中には自分の資料を出しながら説明をし、それを聞きながら聞く姿が見られた。

また、「～さんの言ったことが分かる？」や「～さんの意見はどこに入る？」といった問い返しを取り入れることができた。問い返しは話し手ではなく、聴き手に向けて行うことを今後も続けて意識していきたい。

<課題>

本時のめあてからそれた発言が出るがあった。子どもたちが調べてきたことを柔軟に受け止め、めあてに沿った切り替えしができるように授業準備が必要だと感じた。

今回の単元構想では、戦国時代の終わりに北条氏が滅ぼされたときをスタートとしている。その後、信長・秀吉についてと時代をさかのぼるような学習になった。さらにその後、家康が幕府を開く時代に進むという学習の流れになった。そのため、出来事の流れをつかむことが難しい子どももいた。また、北条氏以降の時代を繋げることができなかった。本時の終わりに「北条氏は尊敬できる？」「この他に尊敬できる戦国大名はいる？」などと投げかけ、信長や秀吉に繋げる工夫が必要だった。